

会報

Bulletin



Topics

平成23年度 香川高等専門学校 入学式を挙行了しました。

平成23年4月5日(火)丸亀市内の綾歌総合文化会館アイレックス大ホールにおいて、香川高等専門学校の第2回入学式を挙行了しました。

入学式では、本科生284名、編入学生2名、留学生5名及び専攻科生52名の計343名の名前が一人ずつ読み上げられ、嘉門校長から入学が許可されました。

嘉門校長から「工学基礎をしっかりと身につけて、将来の科学技術を支えるエンジニアとしての実力を獲得してください。」との式辞が述べられた後、三豊市長横山忠始様から祝辞を賜り、その後、本科入学生代表、専攻科入学生代表による宣誓があり、最後に校歌斉唱を行いました。



式には同窓会会長、後援会会長、名誉教授もご臨席いただき、保護者、教職員とともに新入生の新しい門出を祝いました。

なお、開式に先立ち、3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」により犠牲となられた方々に対して黙祷を行いました。また、入学式会場前において、学生会が東北地方太平洋沖地震被災者に向けた義援金の募金活動を行いました。

目次

contents

- 2 東日本大震災からの復旧復興に向けて
- 3 役員挨拶
- 4 センター長挨拶
- 5 会員企業紹介

- 11 活動報告
- 12 香川高専の活動紹介
- 13 役員名簿
会員名簿
- 15 事務局からのお知らせ

東日本大震災からの復旧復興に向けて

香川高等専門学校産業技術振興会の会員各位におかれましては、常日頃、平田会長をはじめ多くの皆様から香川高専へ一方ならずのご支援を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、平成23年3月11日に発生したM9.0の巨大地震と、それに伴う大津波による未曾有の破壊力によって、東日本太平洋沿岸部は激甚災害を被ってしまいました。さらに、東京電力福島第1原子力発電所の被害は、炉心溶融という大事件に至っており、放射能汚染が大気、水、土地の広範囲に及んでおります。

被災されました関係の皆様方へは、衷心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災によって、私たちは今まさに国難と言えるきわめて重い課題に直面しています。震災復興に莫大な費用がかかることはもちろんですが、原子力発電の見直しが避けられない状況になって、東京電力、東北電力の今夏の電力供給不足が懸念されています。震災直後に実施された関東地区の計画停電による大混乱は、この夏には何とか生じないことを願っておりますが、予断は許さないところかと存じます。西日本におきましても、従来以上に節電に努めなければならないと決意するものです。

電力不足は経済活動、特に物づくり産業にとって直接的なダメージとなることでしょう。重層的な部品供給システムに多大の影響を及ぼすことになるかと考えます。法人税減税の中止なども含めて、企業の国外移転が、結果的に後押しされてしまうことにならないように願う所です。

産業技術振興会の会員企業の皆様も少なからぬ影響を受けておられると伺っています。国全体の経済活動が低下しているという懸念も報告されていますが、少しでも震災の復旧復興が速まることを願っています。私どもは互いに連携して、この多くの課題を克服するように努力を傾注しなければならないと考えています。今後到来が確実とされています東海、東南海、南海地震に備えて、香川高専でも防災教育に努めるとともに、防災研究にも軸足を置く必要があると感じています。瀬戸内海側に位置する香川県は海溝型地震の脅威はそれほどではないと思いますが、直下型の地震は避けることが出来ません。早急に備えを進める所存です。

なお、香川高専では平成25年1月25日に、香川高専創基70周年高専創立50周年記念式典の開催を予定しています。震災を受けて記念事業の準備はなかなか難しくなっておりますが、過度の自粛になることなく進めたいと考えています。何卒よろしくご協力の程をお願い申し上げます。

産業技術振興会の会員企業の皆様の益々のご隆盛を祈念致しますとともに、引き続きの香川高専へのご支援とご鞭撻をお願いして、学校長挨拶とさせていただきます。

香川高等専門学校長 嘉門 雅史

役員挨拶

副会長挨拶

(株)タダノ
執行役員企画管理部長 北村 明彦



このたびの東日本大震災により、直接被災また間接的に影響を受けた皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

日本は今、少子高齢化とBRICSを中心とした新興国の台頭により、「ものづくり」の地位が相対的に低下している中、2008年のリーマン・ショックによる経済津波、さらに先月の東日本大震災と福島原子力発電所事故により、日本経済そのものが危機的状況に晒されています。特に製造業においては、想定外のサプライチェーンの問題が露見し、電力不足による稼働低下を余儀なくされ、消費自粛と風評被害も相まって、問題の長期化が懸念されます。

しかしながら、この難局を打破する原動力はやはり「人」にあると信じています。技術と技能に裏打ちされた「ものづくり」を担う人材が、創意工夫とチャレンジ精神をもってすれば、やがて困難な状況を乗り越え、さらには発展へとつなげることができます。

そのような人を育てることの重要性に鑑み、産業技術振興会の果たす役割は大きいものがあり、振興会会員及び学校の皆様と共に、香川県、さらには日本経済の発展につながれば幸いと考えております。

副会長挨拶

(株)百十四銀行
取締役常務執行役員 泉川 貴昭



この度の東日本大震災により被災された方々には、心よりお見舞いを申しあげますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、わが国が直面している問題は益々多様化し、深刻度を増してきました。震災は少子高齢化やデフレ経済などの諸問題を忘れてしまうほどの、衝撃的な大惨事であり、現在その緊急対策に対峙しているわけですが、従来からの課題が何ら解決していないこともまた確かな事実です。特に地方における経済問題はより一層大きく深刻になってきました。

しかしながら一方で、サプライチェーンの停滞が、日本企業が持っていた技術力の底辺の広さを改めて再認識させてくれました。やはり今まで、日本中の中小企業の弛まぬ技術革新によって、わが国の競争力ある経済基盤が維持されてきたということでしょう。

本振興会は研究シーズと開発ニーズのマッチングによる、産と学を連携させる組織であり、地域でイノベーション(技術革新)を創出していける組織として、益々期待が大きくなっていくと思われます。最後に、振興会会員・学校関係者の皆様の今後益々のご活躍を祈念して、挨拶の言葉とさせていただきます。

センター長挨拶

□ みらい技術共同教育センター長 挨拶

香川高等専門学校
みらい技術共同教育センター長 三崎 幸典 教授



「みらい技術共同教育センター」では学生と教職員が一体となり「みとよ青少年少女発明クラブ」の活動を年間通じて積極的にサポートするなど「理科学離れ対策」から自治体や地域の問題を解決する「地域連携活動」まで地域連携活動を学生の創造性教育の一環として積極的に推進しています。さらに「産学官連携」を積極的に推進するため地域の企業や自治体のニーズを教職員と学生が協力し解決する新しいニーズオリエンテッド手法を推進しています。従来の手法では企業のニーズを聞き出し、研究機関が持っているシーズとマッチングし問題解決する方法でしたが、新しい手法では企業や自治体のニーズを教職員と学生が協力し研究することにより新しいシーズを生み出し問題解決を行っています。また学生が「パテントコンテスト」や「キャンパスベンチャーグランプリ」などのアイデアコンテストに積極的に参加できるよう弁理士の協力を得て知財教育を推進しています。

このような活動により学生の新しい感覚のアイデアで問題解決できる可能性も考えられます。是非遠慮なく「みらい技術共同教育センター」をご利用下さい。

□ 地域イノベーションセンター長 挨拶

香川高等専門学校
地域イノベーションセンター長 岩田 弘 教授



香川高専産業技術振興会会員の皆様には、香川高専で開催しております各種の企画・イベントへのご協力、誠にありがとうございます。

私は、常日頃より、地域連携は企業と学校・教員が敷居なく連絡をとり相談する雰囲気が日常的にできれば成功と考えております。連携は人の繋がりで生れるもので、それにはコミュニケーションが重要です。香川高専には、技術系の専門学科のほか文系を含む一般教育科の多様な分野の教職員や技術者の卵である学生が多数おります。これら教職員と学生が本会会員をはじめとする地域社会と敷居なくコミュニケーションが行えるようにするため、地域イノベーションセンターではイブニングセミナーや教職員による企業見学会をはじめとする各種の企画を行っております。また、教員を少しでも知っていただくために技術シーズ集なども既にお送りさせていただいているところです。

会員の皆様におかれましては、香川高専にご協力いただきますとともに、高専の教職員や学生のシーズを是非ともご利用いただきますようお願いいたします。

会員企業紹介

■ 株式会社石垣

イシガキは創業以来、「信頼に技術で応える」を企業理念に独自性に優れたろ過機、脱水機、ポンプ、ウォータージェット推進機など水に関わる機械を製造・販売しています。これらの製品は水道施設、下水道施設、生産プロセスなど多くの分野において活かされ、身近な生活用水の整備から水環境の保全にまで、その技術の真髄を発揮しています。



企業DNAとも言える「地球環境を守る」という開発・設計思想により生み出された数々の製品は、省エネルギー、省資源、省力化に優れた技術として、国内はもとより海外市場においても高い評価を受けています。高い技術力で顧客のニーズに応え、より高いレベルの信頼と満足を得ることが、企業活動を通じて社会に貢献する方法だとイシガキは考えています。

■ 株式会社今井鉄工所

この度の東日本大震災において、クレーングリッパーを設置したお客様から天井クレーンが脱輪・落下することなく工場の安全が確保されたとお誉めの言葉を頂きました。香川県産業技術センターと弊社で共同開発したクレーングリッパーは大手重機メーカーをはじめ様々な工場に納入させていただいており、納入実績は6年間で約1000台となっております。

今後発生が懸念されている巨大地震に対してもBCP(事業継続計画)の観点から必ずやお役に立てる製品であると自負しております。

また弊社はクレーンメーカーとして最大200tを誇るホイスト式天井クレーンの製造実績もございます。

今後も物作りを通して社会に貢献すべく日々自己研鑽に努める所存であります。



■ 株式会社エスビーエフ

情報化社会が急速に高度化・複雑化する中、メディアのかたちも大きく変わりつつあります。こうした進化を敏感に捉えながら、従来培ってきたビジネスフォーム印刷の技術だけでなく、一般商業印刷における技術革新も図り、インターネット、プリントオンデマンド等様々なソリューションを提供しながら、時代の要請に応えてきました。



当社は情報サービス産業の一端を担う企業として、マーケティングサービス(販売促進支援)会社としてお客様のあらゆるご要望にお応え出来るようにサポートします。また、企画・デザイン制作部門、更にはDTP部門との連携により、構想段階から生産工程に至るまで総合的にメディアをプロデュースいたします。



会員企業紹介

鹿島建設株式会社

1840年の創業以来、鹿島は建設業界のリーディングカンパニーとして活動してきました。東京に本社を置き、12の国内支店と1,900カ所余におよぶ事業所で約8,500人の社員が活動。日本のみならずアジア、ヨーロッパ、米国など20カ国以上の国々でも、さまざまな建築、土木、そして開発プロジェクトを手掛けており、グループ全体で1兆6千億円前後の売上規模を持つ世界的な総合建設会社です。

「全社一体となって、科学的合理主義と人道主義に基づく創造的な進歩と発展を図り、社業の発展を通じて社会に貢献する。」という経営理念のもと、お客様だけでなく社会の信頼にお応えすること、これが私たち鹿島の使命です。



株式会社川上板金工業所

「安全・安心・満足と共にお手伝い致します。」

当社は、昭和9年創業の金属屋根業社でございます。おかげさまで、今年77年という節目を迎え、この間、皇居新宮殿屋根工事を始め、数々の世紀の偉業とも言えるべき屋根を作って参りました。現在では、鋼板メーカーとタイアップし、工場・商業施設・社寺仏閣など屋根の設計、施工を主事業として西日本各地で営業活動を展開しています。今日様々な情報や商品があふれる中、屋根業界も同じことが言えます。弊社も、次世代に向け開発・研究を日々行っています。日本初、ハゼ式勘合型折板「クローザールーフ」は、大型台風にも勝つ高強度屋根材として開発しました。(特許・意匠登録4件、耐力・曲げ・複合・単体試験済み)今後、この折板により、台風災害・被害を0にして、地域社会に貢献することを目指して参ります。



株式会社サカコー

所在地:坂出市江尻町483番地の18

設立:昭和43年8月16日

資本金:3億円

代表者:代表取締役社長 安岡 弘道

従業員数:150人

事業内容:造船用部材加工、鋼材の中継・ショット加工



新日本製鐵(株)の関連会社として、主に造船用鋼材の物流・加工拠点として全国的に幅広く展開しております。

会員企業紹介

■ 株式会社三光エンジニアリング

香川高等専門学校産業技術振興会には100番目加入の新参者ではありませんが、詫間キャンパスとは縁が深く同校卒業の3名により昭和52年設立されました。それ以後、次々と詫間キャンパスの卒業生が技術者として加わり現在の規模となりました。情報・通信技術で故郷に貢献できる企業を目指して、日々活動が続けておるところであります。

事業内容としては、従前の無線通信業務に加えまして環境機器・防災・環境関連業務にも力を入れております。

技術革新の激しい業界であります。香川高等専門学校産業技術振興会に加盟させて頂くことで技術面での更なる研鑽を積んで参りたいと考えております。ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



■ 讃光工業株式会社

当社は農業、建設、工業など各分野の計量システム製造を主事業とし、農業施設用自動ホッパースケールや生コンプラント用バッチャースケールは、全国トップのシェアを誇っています。特に米麦用のほか各種大型計量機やハイテク機能を備えた計量システムは、各業界の自動化、省力化に寄与しています。

計量機メーカーとして注目されている当社ですが、各種のプラント設計でも需要家のニーズに応え、「よい製品を日本全土に」をあい言葉に独創的で高品質の製品づくりこそ、地域とともに歩む当社の変わらぬ姿勢です。

【生産品目】工業用スケール、建設用スケール、農芸用スケール、システム開発、ソフトウェア開発、特殊スケール、各種プラント、ハードウェア開発、グラフィック盤、各種自動制御盤、操作盤



■ 株式会社シーマイクロ

【事業概要】当社は、産業向け電子機器の企画、開発、製造を行っております。特にラインセンサカメラおよび画像処理ボードは、FA、農業、医薬等の分野における検査システムに組み込まれ、性能、信頼性について高い評価をいただいております。

【コア技術】・アナログ、デジタル回路設計技術。(高精度なアナログ信号処理)・高速度通信技術。・FPGA設計技術。・ソフトウェア開発技術(組込み、PCアプリケーション)

【所在地】URL:<http://www.cmicro.co.jp> E-Mail:support@cmicro.co.jp

本社：高松市林町269番地1 TEL:087-869-8310 FAX:087-869-8320

東京営業所：千代田区外神田3-16-13日進ビル5階 TEL:03-3526-6101 FAX:03-3526-0022



会員企業紹介

伸興電線株式会社

144,000km—この距離数は、伸興電線が1年間に製造しているケーブルの総延長数。地球を取り巻くこと、実に3週半に及びます。伸興電線のケーブルは、マンションや戸建住宅の電話やテレビなどに用いる通信ケーブル・LANケーブル・同軸ケーブル、ホームセキュリティ用の火災報知器やインターホン・非常ベルなどに用いる防災・警報用ケーブル、工場・機械の分野における小型電器器具用のビニールコードやFA機器・OA機器・音響機器の制御ケーブルや計装ケーブルなど、あらゆるジャンルで使われています。また、高度情報化社会のさらなる進展とともに新しいコミュニケーションジャンルを開く新商品に対するニーズも高くなっています。伸興電線は豊かな未来を形づくるため、常に電線の可能性を生かした新しい商品のラインアップにチャレンジしています。



大成建設株式会社

大成建設は、1873年の創業以来、高い技術力と確かな品質により、時代を切り開く多くのプロジェクトを手掛けてきました。しかし、現在では単なる構造物の建設だけではなく、人と自然との共生、地震をはじめとした自然災害への対策など、建設業に求められる役割も複雑化・多様化しています。当社は従来から「人がいきいきとする環境を創造する」という企業理念の下、安全で快適な生活環境の整備を通じて社会の持続的発展に貢献することを企業活動の大きな目標としてきましたが、2010年更に“自由闊達・価値創造・伝統進化”という「大成スピリット」を掲げ、全役職員が共通の価値観を持って活動しています。自然との調和の中で、「次世代のための夢と希望に溢れた社会」を創るために、これからも真摯な姿勢で事業活動に取り組んでいきたいと考えます。



株式会社タダノ

1955年に国内初の油圧式トラッククレーンを開発して以来、タダノは日本のクレーンの歴史とともに歩んできました。また1960年に海外輸出を開始し、早くから世界市場を見据えてきました。

現在は世界の国々のニーズに応じた製品を投入できるようにアメリカ、中東及び東南アジア等に販売・サービス拠点を設けるとともに、ドイツ、中国、アメリカではグループ会社が建設用クレーンを製造・販売し「世界で創り、世界で販売・サービスを行う」体制を目指しています。

一方で志度工場に県下最大級の太陽光パネルを設置、製品の輸送にバース船を使うなど、環境に配慮した事業活動を進めています。製品開発においても燃費削減、騒音低減などを目指し、ハイブリット化や電動化など環境に配慮した取り組みを積極的に進め商品化しています。



会員企業紹介

■ 株式会社タダノエンジニアリング

株式会社タダノエンジニアリングは、世界的なクレーンメーカーである株式会社タダノの子会社です。当社は、タダノの先進的なクレーン技術と当社の独自技術を融合して、高性能な門型油圧リフター「スーパーリフター」および「デッキリフト」を開発してまいりました。リフターのほかにも、お客様のソリューションビジネスとして多様なリフティングマシンを1台から開発いたしております。また、株式会社タダノおよびグループ会社から、クレーン・高所作業車等の設計請負、取扱説明書などのマニュアル作成・カタログなどの印刷物の製作受託を行っています。お客様のご要望に応じて質の高いサービス情報を提供しております。私たちは、お客様の厳しいご要望に応えるため、今後も独自技術の向上に努めてまいります。



■ タチバナ工業株式会社

タチバナ工業は、昭和6年10月に立花組として創業、今年で創立80周年を迎えます。浚渫・埋立・護岸工事等の海洋土木を主体として、一般土木、上下水道、道路工事等幅広いニーズにお応えする総合建設業として、「技術と誠実」をモットーに営業を展開しています。グラブ浚渫船（讃岐号・鷺羽号・男木号）及び起重機船（琴平号・瀬戸号）等自社作業船団を保有し、環境に配慮した技術と地域貢献で価値ある企業を目指しています。主な受注先は、国土交通省、香川県・岡山県・高松市・倉敷市等各自治体、及び大手建設会社です。



■ 株式会社ちよだ製作所

株式会社ちよだ製作所は1981年5月創業で、大手ゼネコンなどからの依頼で特殊な機械や各種プラントの設計開発から製造、販売までを行っています。また、最近では太陽光やバイオマスから自然エネルギーを生成する装置など環境機械の開発なども手がけております。廃棄うどんからエタノールを生成する装置は香川県ならではのこともあり最近注目を集めています。自社製品比率が90%以上で製品の対象業種が非常に幅広いところが当社の特徴です。

【主な製品】空気輸送方式急結材添加装置、小型バッテリーカー、モノレール、連続式コンクリートミキサー、メタン発酵装置、太陽光自動追尾システム、長靴自動洗浄機、コンクリート2次製品工場設備など



会員企業紹介

■ 株式会社トーコー

(株)トーコーは、香川県東かがわ市から60年以上に亘り、国内・海外の2000社以上の生産現場に設備機械を納め続けてきました。特にこの数十年は、“カッティングとフォーミングの未来を創造する”べく、電機・食品・自動車・医療・アパレル等々あらゆる業界の裁断および成形工程での様々な要望にキメ細かく応えた機械【裁断機及び成形機】を製造販売していく中で、お客様と共に成長してまいりました。弊社は、設計～加工・製造～納品・アフターサービスまでのすべてを自社で一貫して手掛ける体制を築いております。今後もますます高まる高精度・高能率・省力化・省資源化の仕様・要望を満足し得るオーダーメイドの機械を提供し続けられる様、更なる技術を磨き、新しいことにチャレンジし、社会に貢献していきたいと考えております。



■ 株式会社森川ゲージ製作所

当社は高度な加工技術・仕上げ技術が必要とする、各種ゲージ・治具及び精密測定具の製作を目的に創業しました。現在は油圧・空圧及び水圧機器の設計・製造・販売、特に船用エンジン機器、建設機械用油圧機器が主業になりますが、その他幅広く精密機械を手掛けております。これまで、時代の変遷にかかわらず、ものづくりの原点である、技能・技術者育成を大切に、「現代の名工」はじめ「高度熟練技能者(7名在籍)」など多数の技能者を擁しています。「あくまでも教育の一環として」技能五輪・技能グランプリの出場、技能検定の取得を推奨しています。これからも、原点を大切に、さらなる技術の追求、チエ・工夫・KAIZENにより発展し続けます。



■ ラモナー株式会社

ラモナーの作るものは、“レッグニット”です。現在、日本のレッグニット業界の中で、中堅の企業として認められており、ラモナーだからこそ出来ることがあるからだ、と自負しています。

そのひとつが、自社で「企画」を提案できること。取引先とともに商品をつくりあげることはもちろん、次々と新しい感覚の商品を送り出しているのです。商品に対しての飽くなき追求が企画、開発、そして高品質の製品の実現となって現れます。

もうひとつが情報の分析力です。市場の動きをはじめ、繊維メーカー・流通業界から情報を収集し、データをもとに独自にアレンジしていくのです。

これらの特徴がラモナーを大きく育ててきました。



活動報告

◎平成22年度 インターンシップ企業合同説明会、企業合同面談会を開催(香川高専)

平成23年2月24日(木)及び3月2日(水)に本科3年生及び専攻科進学予定の本科5年生を対象としたインターンシップ企業合同説明会と本科4年生及び専攻科1年を対象とした企業合同面談会を高松キャンパス及び詫間キャンパスの2会場でそれぞれ開催しました。説明会には香川高専産業技術振興会会員企業を含む県内外企業延べ143社にご参加いただき、本校からは学生が延べ342名参加しました。インターンシップ企業合同説明会は、本校及び香川高専産業技術振興会と香川県の3機関が連携して開催しており、今回、高松キャンパス会場には、浜田恵造香川県知事と平田喜一郎産業技術振興会会長((株)ヒューテック相談役)にも御出席いただきました。



◎香川高専産業技術振興会講演会を開催しました。

平成23年3月2日(水)にHOTELニューフロンティアにて、香川高専産業技術振興会講演会および交流会を開催しました。講演会には、本校教職員、振興会会員企業および大学などから52名が参加し、交流会には、25名の参加がありました。

講演会では、キヤノン株式会社インクジェット事業本部中島一浩氏を講演者としてお招きし、『インクジェットプリンター開発秘話～ひらめきから発明へ、発明から製品へ～』と題して、ご自身のご経験を踏まえたモノづくりのあり方、技術者の心得、知的財産への対応等についてご講演いただきました。講演会終了後には、会場を移して交流会が開かれ、終始和やかな雰囲気の中で活発な情報交換が行われました。



◎第8回イブニングセミナー(地域・文化部門)を開催しました。

平成23年3月14日(月)に香川高専高松キャンパス地域イノベーションセンターにおいて、第8回イブニングセミナー(地域・文化部門—一般教育系研究部門—)を開催しました。産業技術振興会会員企業、本校教員など十数名の参加があり、数学科教員の「有限と無限と位相空間」と、社会科教員の「城下町高松の町割に歴史をみる」の2件の話題提供がありました。フリートークでは、無限の不思議、電磁波を閉じ込める空間、京都をモデルとしながらも、日本の城下町に見られる違い・変遷について活発な発言があり、盛況のうちに会を終えました。



◎香川高専産業技術振興会第2回「会員企業見学会」を開催しました。

平成23年3月25日(金)に香川高専産業技術振興会主催により、香川高専の教職員による会員企業の見学会を開催しました。本校の教職員が、振興会会員企業をより深く知り理解するための試みとして企画したものです。

当日は、午前:川田工業株式会社 四国工場、午後:オリエンタルモーター株式会社高松亀水事業所および高松香西事業所を訪問しました。見学会にはのべ22名の香川高等専門学校教職員が参加しました。



香川高専の活動紹介

◎「第1回香川高専発明コンテスト」表彰式を開催しました。

平成23年2月1日(火)に「第1回香川高専 発明コンテスト」表彰式を校長室で開催しました。発明や特許などの知的財産の取り扱い、発想を形にするという技術者にとって身近な側面と、出願から審査請求への手間とコストを有する取り扱いの側面があります。この両側面をコンテスト応募者が学んでくれることを期待しています。

受賞者

👑 地域イノベーションセンター長賞(アイデア賞)

大西 恭平(機械工学科5年)

👑 香川高等専門学校 産業技術振興会長賞(技術賞)

香川 恵里奈(電気情報工学科5年) / 助安 涼(電気情報工学科5年) / 三好 健太(電気情報工学科5年)

谷口 彰典(電気情報工学科5年) / 堀 有輝(電気情報工学科5年)



◎平成22年度プロジェクト研究発表会を開催しました。

平成22年12月8日(水)詫間キャンパスにおいて、香川高専プロジェクト研究発表会を開催しました。この発表会は、校内で申請した研究計画が大変有意義であると採択され、特別研究経費を配分された研究成果を発表するものです。

高松、詫間の両キャンパスの各学科から7人が発表しました。香川高専産業技術振興会から、平田会長を始め会員企業の技術者も多数聴講され活発な質疑応答があった他、アドバイスもいただき、双方にとって大変有意義なイベントとなりました。

研究成果発表会の終了後には学生が、毎年全国大会で優秀な成績を収めている高専ロボコンとプロコンへの出場作品を披露しました。



◎専攻科特別研究発表会



右記の日程で専攻科2年生および1年生の特別研究発表会を開催しました。

各発表会には、教職員の他にも産業技術振興会の会員企業の方々にも参加していただき、いくつかの質問やコメントを頂戴しました。実際のもの作りの現場に携わっている方々の意見は、学生や指導教員にとってよい刺激になります。今後もこれらの発表会に参加して、コメント等をいただけることを願っています。

●発表会日程

12/2(木)

電子通信システム工学専攻(2年生/10名)

情報制御システム工学専攻(2年生/10名)

1/28(金)

創造工学専攻(1年生/25名)

3/2(水)

機械電気システム工学専攻(2年生/24名)

建設工学専攻(2年生/6名)

3/9(水)

電子情報通信工学専攻(1年生/18名)

◎共同教育推進協議会を開催しました。

平成23年2月17日(木)に高松キャンパスにおいて共同教育推進協議会を地域イノベーションセンター主催で開催しました。

高松キャンパスにおきましては、平成20年度から今年度までの3か年で実施してきた「企業技術者等活用プログラム」として、高専の学生に対して地域企業の技術者や高専OB、有識者によるものづくり技術者教育の充実強化を図ってきました。当日は事業にご協力いただいた客員教授のうち13名の方にご出席いただきました。会議ではこの事業を総括し、産業技術振興会や地域産業界と連携した今後の共同教育の進め方について意見交換が行われました。



役員名簿・会員名簿

◆役員名簿

平成23年5月1日現在

企 業 名	職 / 氏 名	役 職
株式会社ヒューテック	相 談 役 平 田 喜 一 郎	会 長
株式会社タダノ	執行役員企画管理部長 北 村 明 彦	副会長
株式会社百十四銀行	取締役常務執行役員 泉 川 貴 昭	副会長
株式会社石垣	代表取締役社長 石 垣 真	理 事
鹿島建設株式会社	執行役員四国支店長 安 藤 進	理 事
川田工業株式会社 四国工場	工 場 長 内 田 修 平	理 事
株式会社四国総合研究所	代表取締役社長 新 田 芳 樹	理 事
四国電力株式会社	常務取締役 武 井 邦 夫	理 事
四国旅客鉄道株式会社	専務取締役鉄道事業本部長 半 井 真 司	理 事
株式会社レクザム	取締役副社長生産本部長 住 田 博 幸	理 事
オリエンタルモーター株式会社 高松事業所	高松地区渉外担当部長 中 野 典 之	幹 事
香川高等専門学校	教 授 山 内 庄 司	幹 事

◆会員名簿 (50音順)

法 人 会 員

葵機工(株)	川崎地質(株) 四国支店
アオイ電子(株)	川田工業(株) 四国工場
(株)朝日段ボール	(株)川西水道機器
(株)綾野製作所	基礎地盤コンサルタンツ(株) 四国支店
(株)アルファ建築空間	木下製粉(株)
(株)石垣	(株)弘栄社
泉鋼業(株)	(株)五星
(株)今井鉄工所	(株)コヤマ・システム
(株)ウズマキ	坂出機工(株)
宇部三菱セメント(株) 四国エリアオフィス	(株)サカコー
(株)エイト日本技術開発	三協エンジニアリング(株)
(株)エスビーエフ	(株)三光エンジニアリング
(株)OA.システムシャープ	讃光工業(株)
(株)大林組 四国支店	三和電業(株)
(株)奥村組 四国支店	(株)シーマイクロ
オリエンタルモーター(株) 高松事業所	(株)ジェイアール四国コミュニケーションウェア
香川シームレス(株)	(株)四国総合研究所
鹿島建設(株)	(株)四国電子計算センター
カトーレック(株)	四国電力(株)
(株)川上板金工業所	四国ドック(株)
川崎化工(株)	四国プラスチック(株)

会 員 名 簿

法 人 会 員

四国旅客鉄道(株)
 四変テック(株)
 清水建設(株) 四国支店
 伸興電線(株)
 住友大阪セメント(株) 四国支店
 瀬戸内金網商工(株)
 (株)セリックス
 (株)ソアテック
 第一衛材(株)
 大成建設(株) 四国支店
 太平洋セメント(株) 関西四国支店
 高松産業(株)
 高松帝酸(株)
 (株)竹中土木 四国支店
 (株)タダノ
 (株)タダノエステック
 (株)タダノエンジニアリング
 タチバナ工業(株)
 (株)ダックス
 田村ボーリング(株)
 (株)チェリーコンサルタント
 中央開発(株) 関西支社
 (株)ちよだ製作所
 筒井鉄工(株)
 東洋建設(株) 四国支店
 (株)東洋製作所
 東洋炭素(株) 詫間事業所
 (株)トーコー
 (株)中村技研
 南海プライウッド(株)
 (株)南條工作所
 西松建設(株) 四国支店
 (株)日進機械
 日東河川工業(株)
 (株)NIPPO 四国支店
 日本工営(株) 四国支店
 日本興業(株)
 日本国土開発(株) 四国支店
 (株)ハイテック

(株)パブリック
 (株)パル技研
 (株)ビットコミュニケーションズ
 (株)百十四銀行
 (株)ヒューテック
 世光加工(有)
 (有)ファイトロニクス
 ブイテック(株)
 富士船舶装備(株)
 扶桑建設工業(株)
 前田工織(株) 四国営業所
 (株)マオカ設計
 (有)正木鉄工所
 (株)丸善
 三菱電機エンジニアリング(株) 丸亀事業所
 三村鉄工(株)
 (株)村上組
 (株)森川ゲージ製作所
 (株)大和製作所
 (株)湯谷機械製作所
 (株)四電技術コンサルタント
 ラモナー(株)
 (株)レクザム
 (株)ワイイーエス
 (株)ワイジーテック

個 人 会 員

今井 正三郎
 十河 浩
 高出 成昭
 中野 安浩
 原 卓雄
 平井 勉
 松川 久俊
 三谷 朋幹
 村雲 治

特 別 会 員

(財)かがわ産業支援財団

事務局からのお知らせ

●副会長の交代について

本振興会副会長の株式会社タダノ児玉義人様の異動に伴い、後任に同じく株式会社タダノの北村様に副会長に就任いただくことになりました。

新副会長 株式会社タダノ 執行役員 企画管理部長 北村 明彦 様

●創刊号アンケートより

12月の創刊号発行の際のアンケートで、多くのご意見を頂きました。その中の幾つかのご意見を紹介します。会報創刊号に対するご意見では、見やすく読みやすい、振興会や高専の動きがよく分かる、等のご意見が多く、概ね好評でした。今後の会報では、シーズ・ニーズ、具体的な連携事例、振興会の活動の詳細、企業の動き等の記事がほしいとのご意見を受けました。

香川高専に対しては、高専の技術力を生かした共同研究推進、学生への地元企業紹介の場を増やす、高専各学科見学会の開催、進学に際してもできれば県内大学へ、等のご意見を頂きました。

また、海外インターンシップについても、数社から受け入れを検討するとの回答をいただきました。受け入れ計画が具体化しましたら、改めてご相談させていただきます。

貴重なご意見ありがとうございました。今後の活動に生かしてまいります。

●香川高専ICTオープンキャンパスについて

産業技術振興会を中心とした企業や公共団体、本校と包括協定を提携している官公庁、大学、さらには中学校等関係との連携強化を図ることを目指し、「地域産業に必要な人材イノベーションのための双方向情報発信戦略」の一つとして、本校からの情報発信、閲覧者からの書き込みを可能とするコミュニティシステム「香川高専ICTオープンキャンパス」を立ち上げました。産業技術振興会会員企業の皆様には、情報交換の場として是非ご利用いただければと思います。

URL <http://www.kagawa-nct.ac.jp/ict/kof0000.php>

●今後の予定

振興会関連の当面の行事として下記を計画しています。具体化しましたら、別途ご案内いたします。

1. 平成23年度総会

9月中旬開催予定。

2. 講演会・見学会

計画中。

3. イブニングセミナー・研究会等

技術分野ごとに随時開催。

4. 企業技術者による共同教育推進

振興会を中心とする企業技術者に香川高専の授業の支援をして頂く。4月より適宜実施。

5. ものづくり分野の人材養成確保事業

(財)かがわ産業支援財団と協力し、「次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修(機械設計コース・電子技術コース)」を本校で開催。

6. 香川発大学高専シーズ発表会

香川大学、徳島文理大学、香川高専が連携し、9月に香川大学工学部で開催。

●香川高専だよりについて

本校では、学生及び保護者を対象とした「香川高専だより」を年3回(6月、10月、3月)発行しており、今年度の6月号から会員企業様にも送付させて頂くこととなりました。会報だけではご紹介できない部分がたくさん盛り込まれた内容となっておりますので、是非、ご覧くださるようお願いいたします。

◆ 編集後記

12月の創刊号に続いて、会報第2号をお届けします。東日本大地震に続く、津波、原発事故、復興対策等々、日本全体が大きな困難に見舞われている中での発行となりました。この会報が会員の皆様のご参考になり、かつ日本の再起に少しでも寄与できれば幸いです。

今号より企業紹介のコーナーを設けて、会員の皆様のご紹介をさせて頂いています。記事をお寄せ頂きました皆様に厚くお礼申し上げますと共に、紙面の都合で次号以降となりました会員様には何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。このコーナーが香川高専および会員の皆様相互の一層の親睦と交流に繋がるよう期待しています。

本会の活動を含めまして、今後ともよろしくご指導、ご協力のほどをお願い申し上げます。

香川高専産業技術振興会 事務局

〒761-8058 香川県高松市勅使町355
香川高専総務課 研究協力係

TEL.087-869-3815・3818

FAX.087-869-3819

E-mail kenkyu@kagawa-nct.ac.jp
<http://www.aip-kagawa-kosen.org/>
